

清水かつら

童謡詩人

和光を愛した

おそいお月さん

叱られて

マンドロシヨ

葎ぎり

ゆきあそび

ランドセル

雀の学校

浅い春

梅のつばみ

みどりのそよ風

お人形

お池の鳥

蟹の母さん

川あそび

梨花の咲く頃

青い庭

よこのあてこ

いもほり

あんよの歌

親なし鳥

秋草野花

ピンポンボン

はるのようちえん

小鳥の音楽会

あした

びつくりうさぎ

ゆめ

朝の雪道

蓮の花

霜のどんどん橋

柿のたね

ちよがみおって

そりあそび

ほおずき

靴が鳴る

おつかい

み空の鏡

サンタクロース

ふりかえって

そっさんの遠眼鏡

春の日あびて

宝の箱

かなづちトントン

月夜の演習

絵日傘

七つのお祝い

はったたり

ペダルをふんで

僕も大きくなったなら
おすなばあそび



12歳のころ

童謡詩人
清水かつら
(本名・清水桂)



“池のある家”にて(二十八歳のころ)

一九〇八年(明治三十一年)に東京の深川に生まれた清水かつらは、
京華商業学校を経て、神田の小学新報社で
雑誌「少女号」などの編集の仕事をしながら、
自らの創作活動を続け、「靴が鳴る」などの作品を
この雑誌に発表しました。

一九二三年(大正十二年)の関東大震災の被害に合い、家財を失ったため
埼玉県北足立郡新倉村の継母の実家(今の和光市)に身を寄せます。

その後白子地福寺近くの“池のある家”に
約十五年間くらしした後、白子川のほとりの家に移り住み、

一九五一年(昭和二十六年)、五十三歳で亡くなるまで
童謡詩人としてたくさんの作品を創り続けました。

代表作には「叱られて」「あした」など、
恵まれなかった少年時代の父母の愛を求めた作品や、
「靴が鳴る」「雀の学校」「みどりのそよ風」など
成増から白子にかけての田園風景や自然を
歌った作品があります。

